



## 日本学術振興会バンコク研究連絡センター

### 活動報告(2011 年 4 月～6 月)



4 月の酷暑を終えバンコクは雨期に入りました。突発・断続的な豪雨により冠水した道が道でなくなることもしばしばですが、朝晩などは過ごしやすい毎日です。一時帰国したセンター長によれば日本の方がよほど暑いということで、今夏の節電下、東京の皆様におかれては体調を崩されることのないようご注意ください。皮肉にも、バンコクのオフィスビルの多くは冷房が中央管制のため個別の制御ができず、日々凍えながらの勤務です。

さて、7 月 3 日、タイでは下院の総選挙が行われ、インラック党首率いるタイ貢献党が圧勝を収めました。これに伴って、民主党のアピシット現首相は党首を辞任し、近くインラック氏が新首相に就任する見通しです。7 月第 2 週である現在のところ、バンコク市内に特段の混乱は見られず、むしろ淡々と日は流れています。当オフィスとしては、タイ情勢の変化にも留意しつつ、高等教育及び科学技術政策等の転換にも注視していく考えです。

#### ■ 若手研究者の集い 2 ■

2011 年 4 月 7 日（木）、東京大学工学系研究科博士後期課程学生の Ms. Salinthip Kungvalchokechai が当センターを訪問されました。東京では当センター長とも面識のあるタイ人の学生さんです。



Ms. Salinthip Kungvalchokechai、センター長

今回のオフィス訪問はタイの森林の違法伐採についての研究打合わせが目的です。タイ森林局（Royal Forestry Department）との共同研究について、研究分野及びフィールドの重複するセンター長に相談をされました。

当センター長としては、条件が揃えば日本人の自分にもできるタイの研究よりむしろ、

タイ人にしかできないタイの研究をすればこそ、彼女の研究価値が高まるのではないかと考えております。日本で学んだからこそできる研究能力をそこで発揮することが、日本で学ぶタイ人の彼女にもっとも求められることではないかという立場から、様々に助言を行いました。

バンコクは今日も若い研究の芽に溢れています。

<http://jsps-th.org/?p=1021>

### ■ タイ国内大学表敬訪問 1 カセサート大学 ■

2011年4月8日（金）、当オフィスメンバー全員でカセサート大学（Kasetsart University）のメイン・キャンパスであるバンキヘン・キャンパス（Bangkhen Campus）を表敬訪問しました。

これは、当センターの2011年度（4月から翌年3月まで）計画の一つで、タイ国内で9つ認定されている研究型国立大学を表敬し、事業紹介をしようという一環です。タイ王国 JSPS 同窓会（JSPS Alumni Forum of Thailand（JAFT））会長である Dr. Busaba Yongsmith 教授が所属し、同窓会員以外でも JSPS 経験者が最も多く所属するカセサート大学を、最初の表敬先とさせていただきました。

ご対応いただいたのは、研究担当副学長である Dr. Sornprach Thanisawanyangkura 准教授と、Research and Development Institute 所長の Dr. Uthairat Na-Nakorn 教授です。なお、Dr. Uthairat 教授は JAFT メンバーでもあります。



センター長、Dr. Sornprach 副学長

まず Dr. Sornprach 副学長よりカセサーと大学についての簡単な説明をいただき、その後センター長より JSPS 及びバンコク・オフィスの業務説明を行いました。

科研費などのあり方には、Dr. Sornprach 副学長ならびに Dr. Uthairat 所長ともに大変な興味を示され、いくつかの質問をいただきました。

その他にも、日本または JSPS の視点から見たタイの大学のありようについて意見

を求められるなど、トータルで1時間以上の議論が展開されました。

## 会談概要

1. カセサート大学は農業大学であり（Kaset 農業、Sart 科学）、メインキャンパスはタイ農務省に隣接している。
2. 学生数という点でチュラロンコン大学をしのぐタイ最大の大学である。
3. 設立は 1943 年 2 月 2 日で、2015 年に 72 周年の記念イベントを計画している。
4. 日本の秋篠宮殿下に対して名誉博士号（動物学）を授与しており、鶏肉に関するプロジェクトを実施している。



5. Dr. Sornprach 副学長は JSPS 事業を通じた研究推進・人材育成・国際化に大変前向きな姿勢でおられる。

6. Dr. Sornprach 副学長より、カセサート大学の若手研究者を対象とした JSPS 事業説明会の実施を打診され、当センターは喜んで承諾した。

Dr. Uthairat 所長、Dr. Sornprach 副学長、センター長、Dr. Busaba 会長

当センターでは今後も、タイ国内大学を表敬し、事業説明頭を行っていく予定です。

<http://jsps-th.org/?p=1027>

## ■ NRCT 表敬訪問 ■

2011 年 4 月 18 日（月）、当センターのスタッフ全員で対応機関であるタイ王国家学術評議会（National Research Council of Thailand（NRCT））を表敬訪問しました。我々の訪問はこれで 3 度目になります。

今回の目的は、今年 2 月に当センターが実施した論文博士号取得者へのメダル授与式とタイ王国 JSPS 同窓会（JSPS Alumni Forum of Thailand）総会への参加とご協力に対する感謝を伝えるとともに、今年 8 月に NRCT が開催し当センターも参加予定の Research EXPO 2011 について情報交換を行うことです。

これは、NRCT 主催で毎年行われている研究博覧会で、主にタイ国内の研究組織等がブース

展示やセミナーを実施するものです。当センターでは数年来これに参加しており、昨年はブース設置のほか、日本から3名のGCOE研究代表者をお招きしてJSPS-NRCT Seminarを開催し好評を得ました。今年も8月26日から30日まで、Bangkok Convention Center at Centaraで開催されます。



Ms. Choosri 部長、センター長

今回は、今年3月10日、科学技術振興機構（Japan Science and Technology Agency (JST)）シンガポール事務所の矢野シニア・プロジェクト・コーディネーターとの打合せの中で提案されたJSPSとJSTの共同出展または共催によるJAPAN Section（仮）を、NRCTに提案しましたが、すでにNRCT側でセミナー枠は決定しているということで、合意に至ることはできませんでした。

かわってNRCTより、8月26・27日にNRCTにより開催される“7th Asian Conference on Computer-Aided Surgery (ACCAS 2011)”へ、そのテーマにふさわしい講師の紹介を打診されました。NRCTにはこれまで多くのご協力をいただいていることから、当センターとしても可能な限りの協力をお約束した次第です。

このほか、当センターが今年度事業として実施しているタイ国内9研究大学表敬への助言をいただくなどし、引き続き、連携と協力をお願いしました。

<http://jsps-th.org/?p=1036>

## ■ 京都大学 園部助教来訪 ■

2011年4月25日（月）、京都大学エネルギー科学研究科の園部太郎グローバルCOE特定助教が来訪され、当センターも参加した、2011年3月8-9日のアセアン大学連合（AUN）-京都大学ワークショップの報告書をお持ちいただきました。

ワークショップ2日目に行ったグループ討議の結果として、研究者や学生といった人的交流を行う前段階として、まずは共同研究で基礎を固めていこうという共通理解に至り、その共同研究のためのマッチングワークショップを2012年の早い段階で行うことが合意されたという

報告をいただきました。

また、AUN と日本という枠組み維持の資金として日・ASEAN 統合基金（Japan-ASEAN Integration Fund (JAIF)）への申請も話題に上がったということです。

[http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/j\\_asean/jaif.html](http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/asean/j_asean/jaif.html)

ASEAN は 2003 年 10 月の第 9 回 ASEAN 首脳会議で「第二 ASEAN 共和宣言」を採択して「ASEAN 安全保障共同体（ASC）」、「ASEAN 経済共同体（AEC）」及び「ASEAN 社会・文化共同体（ASCC）」の 3 つの共同体形成を通じた ASEAN 共同体の実現を目指していますが、科学技術はそのうち「社会文化共同体」に含まれるということです。



園部助教、センター長

当センターからは、AUN の取組みは、質を担保した上で、ASEAN 全体の枠組みの中で進めていくことが大切ではないかと提案させていただきました。そうすることで、一国ではなく ASEAN という域内での分野間調整を図ることを考えてはどうかと、EU の科学技術政策を引きあい出しながらご提案した次第です。

なお、2011 年 6 月 27 日にマレーシアで開催される第 8 回 See Forum についても、今回改めて参加の意思をお伝えいたしました。SEE Forum（Sustainable Energy and Environment Forum）は 2006 年に設立された、地球的な課題としての持続可能なエネルギーと環境についての議論を行うアジア・太平洋地域の学術的なネットワークです。

<http://jsps-th.org/?p=1044>

#### ■ タマサート大学 Dr. Raktipong 来訪 ■

2011 年 4 月 25 日（月）、タマサート大学（Thammasat University）の Dr. Raktipong Sahamitmongkol が来訪されました。タイを対象とした JSPS のプログラムについての相談です。



当センターからはアジア研究教育拠点事業（Acore）とアジア・アフリカ学術基盤形成事業の紹介をさせていただきました。ただし、以上 2 事業は交流を目的としたものでありタイ側に JSPS の研究費が行くわけではないこと、特に Acore は JSPS の負担範囲は基本的に日本側でありタイ側は独自に費用を用意する必要があることを説明いたしました。



Dr. Raktipong、センター長

なお、タマサート大学では学内に競争的資金制度を設置することを計画しており、その際には日本の COE プログラムの設計等を参考にしたいということです。

タマサート大学は今年度の計画である国内 9 大学訪問先の一つであることから、担当理事等への表敬を調整いただけないかなど当センターからお願いしたところ、Dr. Raktipong からは快諾をいただきました。<http://jsps-th.org/?p=1052>

#### ■ タイに事務所を設置する日本の大学等意見交換会 ■

2011 年 5 月 10 日（火）、ウェスティン・グラント・スクンビット・ホテル内「吉左右」にてタイに事務所を設置する大学等意見交換会が実施されました。在タイ日本大使館の広報文化担当である富田一等書記官の呼びかけにより、日本学生支援機構（JASSO : Japan Student Service Organization）タイ事務所の萩原所長が音頭を取って開催の運びとなりました。当オフィスからは副センター長が参加しました。

上記 2 名のほか以下のメンバーが参加し、タイ国内で実施される大学説明会についての意見交換が行われました。

東京農工大学 河井 栄一 教授

大阪大学バンコク教育研究センター 関 達治 センター長

〃

杉山 香里 副センター長

京都大学東南アジア研究所バンコク連絡事務所 柴山 守 教授

東海大学アジアオフィス 富田 紘央 コーディネーター

日本学生支援機構タイ事務所 カンピロム 所員

席上、3月の震災について大学説明会ではどのように対応するか、というテーマが出され、それについて以下のような意見が交わされました。

- ・個別ブースでの展示を行う場合、大学ごとのセールスポイントの区別が難しい
- ・学部学生を対象とすると、奨学金の有無という問題のほか、学力レベルという点でもハードルが高い
- ・主な参加者は日本語学科の学生であり、理系の学生の参加を期待したい
- ・大学説明会自体にタイ国内の日本語学科の支援という要素もある
- ・日本語学科以外の学生としては平日の講義を休んで参加するのは難しいケースが多い
- ・タイ国内の日本人同窓会と連携したネットワーク形成も選択肢である
- ・日本の同窓会規定を当てはめるとタイ人同窓会の形成は困難である
- ・日本への留学の次のステップ、たとえば就職支援にあたるような取り組みを行ってはどうか

なお、当方からは、6月21日開催のカセサート大学での事業説明セミナーを例に、一度に多くの大学の学生を対象に開催するのではなく、一定の大学で集中的に人を集めて実施することを提案しました。また、留学以降の日本からの支援の存在を示すものとして JSPS を挙げていただくことや、場合によっては説明会等に参加させていただくこともできるということをお伝えしました。

同様の意見交換会は、今後も断続的に実施される予定です。<http://jsps-th.org/?p=1108>

## ■ タイ国内大学表敬訪問 2 チュラロンコン大学 ■

2011年5月19日（木）、当オフィスメンバー全員でチュラロンコン大学（Chulalongkorn University）を表敬訪問しました。これは、当センターの2011年度（4月から翌年3月まで）計画の一つで、タイ国内で9つ認定されている研究型国立大学を表敬し、事業紹介をしようという一環です。

チュラロンコン大学はタイで最も長い歴史を持つ大学で、国内の研究・教育を常にリードしてきた存在といえます。



センター長、Dr. Rattachat 総長補佐

JSPS の協定機関であるタイ王国研究協評議会（NRCT：National Research Council of Thailand）の事務総長 Dr. Soottiporn Chittmittrapap 教授もチュラロンコン大学医学部の所属です。

今回の表敬は、タイ王国 JSPS 同窓会（JSPS Alumni Forum of Thailand（JAFT））理事で事務局担当である Dr. Boonchai Technaumnat 准教授にご協力をお願いし、国際交流担当の総長補佐（Assistant to the President for the international affairs）である Assist. Prof. Dr. Rattachat Mongkolnavin にお会いすることができました。

まず当センター長より JSPS 及びバンコク・オフィスの業務説明を行い、次いで、Dr. Rattachat 総長補佐よりチュラロンコン大学の説明をいただきました。学長が日本の有力大学を訪問したことがあることや、奨学金等で日本への留学経験のある学生が多いことなどをお話しいただきました。



左から、当オフィス現地スタッフ、  
副センター長、  
センター長、  
Dr. Rattachat 総長補佐、  
Dr. Boonchai 理事

その後、会談で、JSPS 事業を直接若手研究者に紹介するにあたり、チュラロンコン大学内のホームページに当オフィスのホームページを掲載いただくこと、また卒業式で当オフィスのパンフレットを配布いただけることになりました。卒業生は 1000 人規模ですので、非常に大きな効果が期待できるものと考えています。

また、カセサート大学で 6 月 21 日に実施する事業紹介セミナーの開催を、チュラロンコン大学でも希望する場合は研究担当の副学長をご紹介いただけることもお約束いただき、当オフィスとしては 8 月をめどにスケジュール調整を行う予定です。

<http://jsps-th.org/?p=1058>



## ■ SATRPS 研究連絡会 ■

2011 年 5 月 31 日（火）、チュラロンコン大学理学部にて、通称 SATREPS、地球規模課題対応国際科学技術協力（Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development）による研究連絡会が実施され、当オフィスより副センター及び現地職員が視察しました。

SATREPS は JST（科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency）と JICA（国際協力機構 Japan International Cooperation Agency）が連携してプロジェクトを実施する枠組みです。科学技術と外交の相乗効果により、

a) 日本と開発途上国との国際科学技術協力の強化  
b) 地球規模課題解決のための新たな技術の開発・応用および科学技術水準の向上につながる新たな知見の獲得  
c) キャパシティ・ディベロップメントの 3 つを目指すものです。



現在タイ国内では 5 つのプロジェクトが実施されており、以下のすべてのプロジェクトからの参加者が、それぞれの事業進捗を発表しました。

1. 気候変動に対する水分野の適応策立案・実施支援システムの構築（東京大学 - カセサート大学）
2. 新バイオディーゼルの合成法の開発（北九州市立大学－チュラロンコン大学）
3. 熱帯地域に適した水再利用技術の研究開発（東京大学 - タイ王国環境研究研修センター）
4. 非食糧系バイオマスの輸送用燃料化基盤技術（産業技術総合研究所－タイ国家科学技術開発庁（NSTDA））
5. デング出血熱等に対するヒト型抗体による治療法の開発と新規薬剤候補物質の探索（大阪大学 - タイ保健省）

1 月の CCMA にご参加いただいた Mr. Nontawat Junjareon 前工学部長及び小森大補助教が

1. プロジェクトの報告者として参加されていたほか、昨年 8 月の JSPS-NRCT セミナーで長崎大学 平山先生のモデレーターを務めていただいた Dr. Jokita Boon-Long が 5. プロジェクトの報告者として参加されていました。

なお、各プロジェクトの報告に先立って、JST 岡谷重雄 参事役・地球規模課題国際協力室長



JST 岡谷重雄 参事役

より、新たに開設されたコミュニティサイト「Friends of SATREPS」の照会がありました。これは SATREPS 専用の SNS で、SATREPS に関係する人材コミュニティの形成と促進を目的として設置されました。今後、既存メンバーの連絡調整のほか、SATREPS に関心ある人たちが当 SNS を利用してプロジェクトに関わっていくといったことが期待されています。

<http://jsps-th.org/?p=1118>

## ■ 大分大学 内田博士 来訪 ■

2011 年 6 月 2 日（木）、大分大学医学部より内田智久博士が当オフィスを来訪されました。

現在、科学技術振興調整費「アジアにおけるヘリコバクター・ピロリ菌の分子疫学研究」と JSPS 組織的な若手研究者等海外派遣プログラム「東アジア分子疫学研究推進のための若手研究者派遣プログラム」の支援を受けており、今回は後者によるタイ訪問ということです。

約 1 週間のタイ滞在ですが、当オフィスを来訪する前にすでにタイ南部へサンプル調査に行っておられたということで、共同研究機関であるチュラロンコン大学医学部を拠点にブータンやベトナム、台湾など東アジア地域におけるピロリ菌の採集・分析を積極的に行っておられます。

当方からは、オフィスの活動紹介のほか、EU やアメリカに比較してアジア域内での共同研究数の少なさを例にとり、東アジア地域で活発な研究活動が行われている内田博士にはぜひア

ジアとアジアの懸け橋としてもご活躍いただきたい旨お話しさせていただきました。



内田博士、副センター長

今回は副センター長一人での対応となり、学術的な部分に立ち入ることができませんでした。次回 12 月頃に再来タイされるそうですので、その際にはぜひセンター長を交えてお話しさせていただければと思っております。

### ■ タイ国内大学表敬訪問 3 タマサート大学 ■

2011 年 6 月 7 日（火）、当オフィスメンバー全員でタマサート大学のランシット・キャンパス（Thammasat University Rangsit Campus）を表敬訪問しました。これは、当センターの 2011 年度（4 月から翌年 3 月まで）計画の一つで、タイ国内で 9 つ認定されている研究型国立大学を表敬し、事業紹介をしようという一環です。これまでにカセサート大学とチュラロンコン大学を訪問しています。

タマサート大学は医学関係の研究者が多いタイ国内で人文社会系の分野が強い大学として知られています。副学長の中には、JSPS の論文博士号取得希望者に対する支援事業（論博）により早稲田大学で政治科学を修めた方もおられます。

今回の表敬は、先日、当センターを訪問いただいた Dr. Raktipong Sahamithongkol にご協力をお願いし、研究教育担当の副学長（Vice Rector for Research and Educational Services）である Assoc. Prof. Dr. Taweep Chaisomphob にお会いすることができました。会談には研究事務の担当部長（Director, Office of Research Administration）である Ms. Chanticha Sriyothin が同席されました。



センター長に事業説明を聞いているタマ大関係者

まず当センター長より JSPS 及びバンコク・オフィスの業務説明を行い、次いで、Dr. Taweep 副学長よりタマサート大学の説明をいただきました。タマサート大学では社会科学について 1999 年から拠点大学交流事業を、2009 年からはアジア研究教育拠点事業を、京都大学東南アジア研究所と継続して実施していることが紹介されました。

その後の会談の中で、当センター長から、JSPS による支援対象者についても分野間の偏りがみられるタイにおいては、人文社会科学が強いタマサート大学からの申請が増えることを期待している旨が伝えられました。Dr. Taweep 副学長からは、JSPS 事業への申請を今後より多くするにあたって、特に外国人特別研究員事業と論博について、その申請手順をわかりやすく示した資料の作成を依頼されました。

また、Dr. Taweep 副学長からは、外国からの支援によるのではなく自前の研究支援システムとして学内 COE のシステム構築を行っていることが紹介され、当センターとしては、できる限りの助言等をさせていただく旨をお伝えしました。



センター長、Dr. Taweep 副学長、Dr. Raktipong、Ms. Chanticha

このほか、当センター長より、JSPS による支援はボトムアップ型、つまり研究者の発案を支援するものであり、研究計画ありきの競争的資金であることを説明いたしました。支援の獲得までの競争はフェアで厳しいものの、ODA などトップダウン型の支援に比べて資金運用の柔軟性という点で優れているという点でも、研究を支援していくというポリシーが生かされています。

Dr. Taweep 副学長は即座にご理解いただき、6 月 21 日にカセサート大学で行うのと同様に、タマサート大学でも事業紹介のセミナーを開催するよう要請をいただきました。当センターとしては快諾し、引き続き Dr. Raktipong を窓口調整を行っていく予定です。

<http://jpsps-th.org/?p=1096>

### ■ 若手研究者の集い3 ■

2011 年 6 月 7 日（火）、チュラロンコン大学アジア研究所（Institute of Asian Studies, Chulalongkorn University）より Ms. Saikaew Thipakorn 研究員が当センターを来訪されました。

大学では政治学を研究しておられ、今回の訪問目的は日本の研究支援政策についてセンター長にインタビューをするというものでした。

インタビューでは、センター長自身がどうしてセンター長に選ばれたのか、JSPS と



センター長、Ms. Saikaew



JST（科学技術振興機構）の違いは何か、JSPS の職員構成はどのようなになっているか等々、非常に細かい質問が出され、センター長としても答えに窮する場面がありました。

1978 年に開始された論文博士号取得者に対する支援事業をはじめとして、我が国からタイ王国に対する研究支援活動には 30 年の歴史があります。その経験や我が国の支援体制をモデルとしてタイ国独自の研究政策が築かれ、我が国をはじめとするアジア域内での共存共栄が実現されていくことを望みます。<http://jsps-th.org/?p=1130>

### ■ 事務所共用に向けた打合せ ■

2011 年 6 月 8 日（水）、JASSO（学生支援機構 Japan Student Service Organization）タイ事務所の萩原所長が当センターを訪問されました。

今年度中の事務所移転と共用に向けた打合せです。昨年 12 月の閣議決定を受けて以来、今年 1 月には当オフィスで JSPS 国際部長と JASSO 財務部長の協議が行われるなど、継続的に協議されてきました。



センター長、萩原 JASSO タイ事務所長

今回は JSPS 本部と JASSO 本部との間で行われた最新の協議を受け、双方の現地事務所で細かな部分の検討を行いました。共用が実現した際のレイアウトなど移転に向けてクリアにしないでいけない課題は多く、今後も本部間および現地間で協議・検討を重ねていく意向です。

<http://jsps-th.org/?p=1112>

### ■ 東京大学 川崎准教授 来訪 ■

2011 年 6 月 10 日（金）、東京大学生産技術研究所所属で、都市基盤安全工学国際研究センター准教授としてバンコク郊外にある AIT（アジア工科大学院）に派遣されている川崎昭如博士が当オフィスを来訪されました。



川崎准教授は今年 10 月にチェンマイで行われる第 10 回アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム―USMCA2011 の開催を担当しておられます。そのため、当該シンポジウムへの参加要請をいただき、当オフィスとしては快諾の上、その打合せを行いました。



川崎准教授、センター長

このほか、当オフィスが 10 月から 11 月に予定している社会科学に関するセミナーについて助言をいただき、東京大学生産技術研究所の同窓会会合との連携などが話し合われました。

まだまだ青写真の段階で未定の部分が多い状況ですが、今後、関係各所と連絡を取りながら、開催準備を進めていく所存です。

<http://jsps-th.org/?p=1136>

## ■ 京都大学東南アジア研究所タイ事務所での夕食会 ■

2011 年 6 月 14 日（火）、京都大学東南アジア研究所（CSEAS）バンコク連絡事務所にて、駐在員交替にあわせた夕食会が開催され、当オフィスより副センター長が参加しました。

同事務所はバンコク市内スクンビット・ソイ 20 にあり、1963 年に開設された我が国で最も歴史のある大学オフィスです。

CSEAS 側からは、現駐在員である CSEAS 柴山守教授、同じく教授である河野泰之教授、前駐在員の星川圭介助教（地域研究統合情報センター）のほか、新駐在員の東京大学農学生命科学研究科 富田晋介 助教が出席されました。今回は CSEAS の共同利用・共同研究拠点化にともなって東京大学の研究者が駐在員に選ばれたそうです。任期は 3 カ月です。

外部からの参加者は以下の通り。

東京農工大学 河井 栄一 教授

大阪大学バンコク教育研究センター 関 達治 センター長

〃

杉山 香里 副センター長

東海大学アジアオフィス 富田 紘央 コーディネーター

タマサート大学東アジア研究所 葉野 純一 客員教授

泰日工業大学 水谷 光一 講師

日本学生支援機構タイ事務所 萩原隆司 所長

JICA タイ事務所 米田 一弘 所長

〃 田中 章久 次長



手作りのおいしい料理がふるまわれ、リラックスした空気の楽しい会となりました。  
当方からは河野教授に 10 月に予定している社会科学に関するセミナーについてお話させていただきました。<http://jsps-th.org/?p=1148>

#### ■ 福岡工業大学 学長一行 来訪 ■

2011 年 6 月 17 日（金）、福岡工業大学より下村学長をはじめとする 5 名が当オフィスを来訪されました。訪問者は以下の通りです。

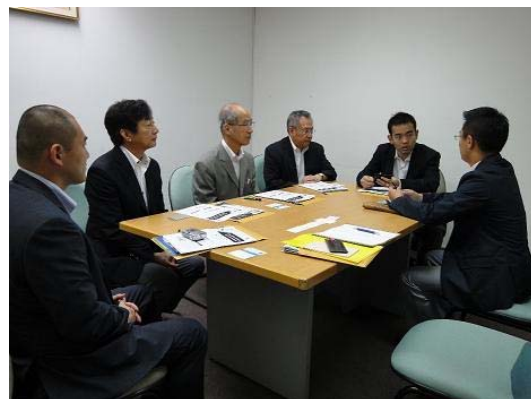
下村輝夫 学長

大谷忠彦 専務理事

倪 宝栄 教授・国際交流委員長

米田達郎 カリフォルニア事務所所長

大谷哲也 学生部学生課職員 主任



福岡工業大学は 1963 年設置された私立大学で、工学部、情報工学部、社会環境学部、短期大学部で構成される学生数約 4,500 人の大学です。2008 年 3 月にキングモンクット工科大

学ラックラバン校と学生・教員の交流等に関する学術協力協定を締結し、盛んに交流されています。

また、アメリカ・カリフォルニア州のアラメダ市にもカリフォルニア事務所を設置されており、今回は、サンフランシスコ・ベイエリア大学間連携ネットワーク（JUNBA : Japanese University Network in the Bay Area）と関係の深い JSPS サンフランシスコ研究連絡センター竹田センター長よりご紹介を受けての訪問となりました。

シンガポールと比較した上でのバンコクの特徴や、都心の大型総合大学ではない地方の単科大学としての活動方針などについて突っ込んだ意見交換が行われました。意思決定の速さや行動力が重要になってくるという理解は共通しており、日本国内の同様の大学との緩やかな連携により、学生交流から研究交流へとステップアップしていくための方策が議論されました。

JSPS や文部科学省から随時公募がかけられる様々な事業は国の方針を反映しているのであ



り、それに素早く対応できるアイデアと行動力を蓄えておくことの重要性が確認されました。

なお、福岡工業大学では事務職員の多くをアメリカの協定校へ研修に出すなど、教員育成のみならず職員育成にも注力し、大学全体で活発に活動する熱気のようなものさえ伝わりました。

<http://jsps-th.org/?p=1207>

大谷主任、倪委員長、下村学長、センター長、大谷理事、米田所長

#### ■ タイ国内大学表敬訪問 4 キングモンクット工科大学ラックラバン校 ■

2011年6月17日（金）、当オフィスメンバー全員でキングモンクット工科大学ラックラバン校（KMITL : King Mongkut's Institute of Technology Ladkraban）を表敬訪問しました。これは、当センターの2011年度（4月から翌年3月まで）計画の一つで、タイ国内で9つ認定されている研究型国立大学を表敬し、事業紹介をしようという一環です。これまでにカセサート大学、チュラロンコン大学、タマサート大学を訪問しています。

KMITLはタイにおける工科系のトップ大学のひとつで、日本のODAにより職業訓練センターから大学へと発展してきた歴史があります。現在は福岡工業大学のほかにも東海大学とも緊密な関係を維持しており、国際交流担当副学長である Assoc. Prof. Dr. Ruttikorn Varakulsiripunth は東北大学で学位を取られました。日本語が極めて堪能で、今回の会談はすべて日本語でおこなわれました。なお、今回の表敬は、同じ日に当センターを訪問いただいた福岡工業大学にセッティングをお願いし実現したものです。

まず福岡工業大学より、KMITL が日本の高専機構と協定を結んでいることや、産業教育部に日本語学科を設置して、特に工場をもつ日本企業への就職を有利にすすめていることなどが紹介されました。

Dr. Ruttikorn 副学長自身は過去に拠点大学交流事業でも日本へ来たことがあることや、論文博士取得希望者に対する支援事業で、タイ NRCT 側の工学部門先行委員会の議長をしておられるなど、JSPS について非常に明るく前向きな姿勢でおられ、我々としても嬉しさを乗り越して恐縮を覚えるほどです。

センター長より、JSPS による支援経験者の専攻統計を例に、タイのアカデミズにおける工学系人口の少なさが説明され、KMITL で JSPS への申請を奨励するようお願いしました。若い研究者を外の世界へ向けることの難しさを感じておられる Dr. Ruttikorn に対し、JSPS の事業紹介セミナーを提案したところ、非常に前向きなお返事をいただくことができました。

福岡工業大学よりアジア研究教育拠点事業 (Acore) やアジア・アフリカ学術基盤形成事業 (AAplatform) の申請要件について質問があり、福岡工業大学が申請可能であることと併せて、二つの事業による主な支援が人材交流であることから、たとえば KMITL との既存の共同研究や共同事業を元に申請することが事業趣旨にかなうことを回答しました。



左から 米田所長、Dr. Ruttikorn 副学長、大谷理事、  
センター長、副センター長、下村学長、倪委員長、大谷主任



その後、Dr. Ruttikorn 副学長より、最近のタイの大学を取り巻く環境が紹介され、民間との共同研究や、基金を利用した研究者派遣などについて説明がありました。

最後に、Dr. Ruttikorn 副学長から、災害と大学の役割についての公開セミナーが 6 月 30 日に東海大と共同で開催されることが紹介され、当センターとしては喜んで参加させていただく旨、回答しました。<http://jsps-th.org/?p=1215>

### ■ 小島在タイ日本大使を表敬訪問 ■

2011 年 6 月 20 日（月）、当センター全員で在タイ日本大使館に、小島誠二 特命全権大使を表敬しました。

今回の表敬訪問の目的は、今年 2 月に実施された JSPS タイ同窓会総会及び論文博士号取得者へのメダル授与式に、坂入倫之一等書記官がお越しいただいたことへの感謝をお伝えすると



センター長、小島大使

ともに、JSPS タイ同窓会が大使に名誉会員の称号を付与したいと考えている旨をお伝えし、その可否を伺うことです。

小島大使は科学技術協力担当大使でおられたこともあり、センター長よりタイにおける JSPS の活動についてご説明さしあげたところ大変に興味を示され、タイにおける科学技術の傾向などについて質問をされました。

また、タイ国 JSPS 同窓会名の名誉会員の付与についてお伺いしたところ、問題なくお引受けいただけるとのこと回答をいただきました。<http://jsps-th.org/?p=1174>

### ■ 科学技術博覧会 第一回説明会 ■

2011 年 6 月 20 日（月）、今年 8 月 6 日から 21 日まで BITEC (Bangkok International Trade & Exhibition Centre バンコク国際貿易展示センター) で開催される科学技術博覧会 Science &



Technology Fair) に関する第一回説明会が開催され、当オフィスよりセンター長と現地スタッフが出席しました。

会場はバンコク市内の科学技術省 (MOST : Ministry of Science and Technology) で、戦勝記念塔近くにあります。タイ省庁、大学、民間企業、ドイツ大使館及びフランス大使館の担当者が出席し、今後の予定や展覧会におけるテーマ区分などについて説明がありました。

公式の開会式は 8 月 9 日 15 時からで、昨年同様シリトン王女が出席されるということです  
<http://jsps-th.org/?p=1182>

#### ■ カセサート大学で事業説明会・BRIDGE Fellowship 報告会を開催 ■

2011 年 6 月 21 日 (火)、カセサート大学 (Kasetsart University (KU)) にて JSPS 事業説明会を兼ねた BRIDGE Fellowship (BF) 報告会を開催し、会場には若手研究者 70 人が集まりました。

これは 4 月 8 日 (金) の表敬訪問において Assoc. Prof. Dr. Sornprach Thanisawanyangkura Vice President for Research, KU 及び論文博士号取得希望者に対する支援事業により博士号を

取得され、JSPS タイ国同窓会 (JSPS Alumni Forum of Thailand (JAFT)) メンバーでもある Prof. Dr. Uthairat Na-Nakorn, Director, Research and Development Institute, KU より要請を受けたことにより実現したものです。一般的な事業説明に加え、JSPS 事業経験者の体験談等を披露することで若手研究者の日本への意欲を高めることを目的に、経験豊かな BF 派遣者による報告会をあわせて開催することとしました。



Dr. Danai, Dr. Uthairat, センター長, Dr. Sornprach, Dr. Busaba, Dr. Sukanya

2010 年度 BF 派遣者で JAFT 会長 (President) でもある Dr. Busaba Yongsmith, Professor, Faculty of Science, KU からは、ご自身が京都大学農学部で博士号を取得した際の新聞記事から、今年の大阪大学滞在に至るまで、30 年に及ぶ豊かな研究経験を語っていただきました。

2011 年度 BF 派遣決定者である Dr. Danai Tiwawecheenior, Chief of Cancer Biology Section, Research Division, National Cancer Institute からは派遣先の東京大学における研究計画についての詳細な説明がなされ、若手研究者にとっては非常に貴重な学びの機会となり、そして論文博士号取得希望者に対する支援事業により駒沢大学で博士号を修められた Dr. Sukanya Aimimtham, Associate Professor, Faculty of Humanities and Social Sciences, Khon Kaen University からは、論博事業の詳細な体験談と、コンケン大学（Khon Kaen University）のあるタイ東北地方での研究実態を語っていただきました。



大入りの会場

報告会について、来年は National Cancer Institute で開催いただく旨、Dr. Danai に手配を依頼しております。

9:30-10:00 Registration

10:00-10:05 Opening remarks from JSPS Bangkok office

-**Dr. Wataru Takeuchi**, Director, JSPS Bangkok Office

10:05-10:10 Welcome address from Kasetsart University

-**Assoc. Prof. Dr. Sornprach Thanisawanyangkura**, Vice President for Research, Kasetsart University

10:10-10:30 Introduction of JSPS activity in Asia (Q&A included)

-**Dr. Wataru Takeuchi**, Director, JSPS Bangkok Office

10:30-10:50 30 years research experience and what is learned from Japan as a BRIDGE fellowship program awardee FY2010 from Thailand (Q&A included)

-**Prof. Dr. Busaba Yongsmith**, Faculty of Science, Kasetsart University

10:50-11:10 Research experience and plan in Japan as BRIDGE fellowship awardee FY2011

-**Dr. Danai Tiwawechee**, Senior Scientist Level 8, Chief of Cancer Biology Section, Research Division, National Cancer Institute

11:10-11:30 Research experience in Japan for Ph. D as a RONPAKU program awardee from Thailand (Q&A) included

-**Assoc. Prof. Dr. Sukanya Aimimtham**, Faculty of Humanities and Social

Sciences, Khon Kaen University

11:30 Open discussion

Moderator: **Prof. Dr. Uthairat Na-Nakorn**, Director, Research and Development Institute,  
Kasetsart University

その後、Dr. Sornprach 副学長より招待いただき、モデレーターを務めていただいた Dr. Uthairat 所長、発表者及び当オフィスメンバーでの昼食会となりました。6 月 7 日に表敬したタマサート大学（Thammasat University）の Assoc. Prof. Dr. Taweep Chaisomphob 副学長と Dr. Sornprach 副学長がともに工学系の教員であることから、今回のような当オフィスの活動についてすでに情報交換がなされているが明かされるなど、貴重な情報収集・意見交換の機会となりました。



色々なお話を聞く機会となった昼食会

当オフィスとしては今後も、様々な機会をとらえて同様の活動を続けていく所存です。

## ■ 第 5 回 JAFT 理事会 ■

2011 年 6 月 22 日（水）、当オフィス最寄りの BB Building に入居する JAXA（宇宙航空研究開発機構）バンコク駐在員事務所にて、タイ王国日本学術振興会同窓会（JAFT: JSPS Alumni Forum of Thailand）の第 5 回理事会が開催されました。

同窓会長の Dr. Busaba Yongsmith をはじめ、5 名（定員 12 名）の理事が出席し、センター長を交えて議事が進行されました。

なお、議事開始に先立っては、水元伸一 JAXA バンコク駐在員事務所長よりご挨拶をいただきました。

議事では、2010 年 3 月 30 日に開催された第 4 回理事会の議事録の承認が行われ、併せて、当該



水元所長にごあいさついただきました

議事録をもって 2010 年 2 月 4 日に開催された第 2 回総会の議事録とすることが決定されました。

このほか、JAFT の公式住所を NRCT 内に設置することについて JAFT より再度レターを送ることや、小島大使に名誉会員を付与するための手続きが話し合われたほか、同窓会員への会員証の送付が、登録担当理事である Dr. Somkiat Supadech により行われることが決まりました。

Dr. Busaba 会長からは、3 月の地震津波被災への支援として JAFT メンバーから 100,000 円の寄付が在タイ日本大使館を経由して行われたことと、6 月 21 日に開催された事業説明会・BRIDGE Fellowship 報告会について、報告が行われました。

また、当オフィスがタイ国内 9 大学訪問について報告したところ、理事より全国工学系学部長評議会 (CEDT : Council of Engineering Deans of Thailand)、ラチャパット大学 (Rachapat University)、ナレスワン大学 (Naresuan University)、ブラパー大学 (Burapha University) といった名前が、その他の表敬・事業説明先の候補としてあげられました。

理事会出席者は以下の通りです。

1. Dr. Busaba yongsmith 会長
2. Dr. Paritud Bhandhubanyong 副会長
3. Dr. Boonchai Techaumnat 事務局長理事
4. Dr. Jiraporn Shauvalit レベション担当理事
5. Dr. Songsri Kulpreecha 理事
6. Dr. Wataru Takeuchi センター長

<http://jsps-th.org/?p=1223>



左から、水元所長、4, 5, 1, 2, センター長, 3

## ■ GISTDA での事業説明会 ■

2011 年 6 月 23 日 (木)、タイ地理情報宇宙開発機構 (GISTDA : Geo-Informatics and Space Technology Development Agency) にて、JSPS 事業説明会を行いました。GISTDA はタイ国内の宇宙・衛星事業を統括管理運営している組織で、センター長の共同研究機関でもあります。

今回の説明会は、GISTDA 研究職員で東京大学で学位を修められた Dr. Preesan Rakwatin の紹介により実施されました。参加者は GISTDA 職員が役 15 名で、そのうち博士号を持って



いるのは 2-3 名でした。そのため、論文博士号取得希望者に対する支援事業に関心が集まりましたが、JSPS が行うのは博士号取得までの経済的な支援であり、博士号授与の権限はあくまでも各大学にあるのであって、本事業に選ばれることと博士号取得はイコールではない点に特に注意を促しました。

今回の司会を務められ、GISTDA の理事会委員で事務局次長でもおられる Dr. Anond Snidvongs (Member, GISTDA Executive Board, Acting Executive Director)からは、タイの JSPS 経験者は医学系に比べて工学系が少ないことに対して、JSPS から NRCT に工学系を増やすように働きかけることはできないか、などの質問がありました。



センター長、Dr. Anond 理事

当オフィスとしては、申請数の増・減をもって需要の増・減を示すことが科学的で合理的ではないかという考えをお伝えしました。<http://jpsps-th.org/?p=1233>

## ■ マレーシア出張 SEE Forum にて事業紹介 ■

2011 年 6 月 26 日（日）から 28 日（火）まで、センター長および副センター長がマレーシア・クアラルンプールへ出張しました。目的は、6 月 27-29 日の日程で開催される「The 8th Sustainable Energy & Environment (SEE) Forum Meeting」に参加し、JSPS 事業紹介を行うことです。



事業紹介を行うセンター長

See Forum は 2006 年に設立された、地球的な課題としての持続可能なエネルギーと環境についての議論を行うアジア・太平洋地域の学術的なネットワークで、今回の会議にもブルネイ、インドネシア、インド、日本、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの 9 カ国から大学関係者が参加し、各国での環境に対する学術的なアプローチなどが紹介されました。

また、具体的に JST-JICA の枠組みで実施する SATREPS（地球規模課題対応国際科学技術協力 Science and Technology Research Partnership for Sustainable Development）への申請状況報告がなされるなど、国際共同研究に対する需要の大きさ、意識の高さを感じることができました。

当オフィスは紹介ブースを設置してブローチャーの配布を行ったほか、センター長による事業紹介セッションの時間をいただき、東南アジア各国の声としての事業申請を呼びかけました。その後、博士号取得者からは外国人特別研究員事業への申請について特に助言を求められたり、博士未取得の学生からは論文博士号取得者への支援事業について詳細を確認されるなど、関心の高さを肌で感じる機会となりました。

参加者本人だけでなく所属する大学でも設置・紹介いただけるよう少し多めに準備していった 300 部のブローチャーはすべて配布されるなど、多国間の枠組みで実施される学会等での広報活動の効果の高さを再確認する機会となりました。<http://jsps-th.org/?p=1242>



クアラルンプールのランドマーク：ツインタワー

#### ■ 東海大学・キングモンクット工科大学の共催セミナー参加 ■

2011 年 6 月 30 日（木）、バンコク市内 Swissotel Le Concorde Hotel にて、東海大学及びキングモンクット工科大学ラックラバン校（KMIL: King Mongkut's Institute of Technology Ladkraban）が「東日本大震災の状況と、震災後・減災に向けた大学の役割について」と題するセミナーを開催し、当オフィスのメンバー全員で参加しました。6 月 18 日の Dr. Ruttikorn

副学長表敬の際にご紹介いただいたものです。

東海大学と KMITL は 1977 年に交流協定を締結しており、2003 年 11 月に KMITL 内にアジアオフィスを開設して、学生交流や事務職員の研修を行っています。

今回のセミナーは震災後の日本の状況を正しく理解してもらうことを目的に、全国にキャンパスを持つ東海大学が独自に収集分析したデータに基づいて我が国の安全性を訴えるなど、現況下における大学の役割をも考えるとなりました。

300 人を超える参加があったということです。

<http://jsps-th.org/?p=1246>



会場の様子

## ■ ASEAN 加盟国大学の新たな挑戦 ■

フルブライト研究員 Dr Kuldeep Nagi (タイ・アサンプション大学) による解説

世界銀行の教育専門家 Luis Benveniste は昨年、Towards a Competitive Higher Education System in a Global Economy と題する報告書の中で、タイの高等教育の質が長期的な発展に障害をもたらすことになるとの指摘を行った。Time 誌による 2010-2011 年版大学ランキングではタイの大学は一つも上位にランクしておらず、シンガポールの 2 つの大学だけが ASEAN から入賞している。タイを含む ASEAN の国々では外国機関による大学ランキングに対して批判的である一方、過去何年も様々な委員会や研究報告がタイ高等教育の危機を指摘している。

世界銀行の報告では、加熱する世界の大学競争において、ASEAN 加盟国大学が取り組むべき二つの問題点を指摘しており、ひとつは、域内でのガバナンスに関する強烈な不均衡と高等教育についての統一的な枠組み作成に関する無力さ。そして英語での教育である。

国立オーストラリア大学が 1998 年に行った調査では、インドネシア、マレーシア、タイ政府による大学運営への干渉の高さを指摘しており、それは現在に至るまで大きく変化していない。特にタイをはじめとする ASEAN の大学では、その長くない歴史の中で王、為政者、軍、政府への忠誠を尽す義務があり、これが政府による運営面での干渉を強める背景となった。

EU 加盟国が多くの主権・独立性をあきらめたのに比べ、ASEAN には共通の繁栄を求める姿勢が低いこと。また、加盟国間での経済的な不均衡の大きさを挙げ、多くの専門家が ASEAN が EU にはなれないことを指摘。タイとカンボジアにおける国境紛争などが例として上げられる。

グローバリゼーションの中で ASEAN の大学には競争力ある人材の養成が求められ、自由経済市場では人材の流動性が必須である。英語力はその基本であり、その歴史的な不足は根本的な不利を生じさせ、そのことが認証における基準の不足、単に及び教育水準の低さを生じさせる。また、世界銀行の報告が指摘する最大の弱点は、高等教育機関での研究開発に対する投資の少なさである。シンガポールとマレーシアを除いて、ASEAN の大学の要はいまだに教育に置かれている。

2015 年の ASEAN 経済共同体 (AEC) 創設に向け高等教育はますますその重要性を増しており、ASEAN 域内での変化の速度は足並みが揃ってはいない。

(Nation 紙 3 月 29 日)

## ■ 大学受験生 3 分の 1 が不合格 ■

今年の統一入試試験で面接試験に進めたのは、全受験者のうち 3 分の 2 に満たなかった。タイ大学学長協会議長の Prasart Suebka 教授によると、筆記試験合格者は 123,260 人中 78,096 人であった。だが、公立私立大学の中にはまだ受験申し込みを受け付けるところもある。

スラナリー工科大学を含む 94 大学が今年、統一試験での新入生確保を考えている。今のところ、タマサート大学政治科学部への受験者 3,032 が最多数 (定員は 50)。カセサート大学バイオ化学プログラムの競争も苛烈で、定員 35 に対し 1,578 の受験生を得た。チュラロンコン大学スポーツ科学は定員 60 に対して 1,781 人の受験生を集めた。

Triam Udom Suksa 校の Rat Patumrat 君は今年の最高得点 93.21 獲得者で、チュラロンコン大学政治科学部への進学を希望。第 2 位は 89.53 点、第 3 位が 87.46 点。今年は盲目の生徒 2 名も筆記試験に合格し、ともにチュラロンコン大学教育学部を希望している。

(Nation 紙 5 月 5 日)



## ■ ASEAN の未来のために手を取り合う 学生 ■

ASEAN10 カ国をはじめ、中国、日本、韓国の学生がバンコク近郊で実施されたアセアン大学連合（AUN：Asean University Network）のヤング・スピーカーズ・コンテストに参加した。

タイのマヒドン大学が主催を務めた、このAUN12 回目のイベントは「ASEAN プラス 3 の強化 - 地域連携を通した高等教育」をテーマとした。一等賞はインドネシア大学の Natalia Rialucky Tampubolon。フィリピンのデ・ラ・サル大学 Julian Bautista が二等、国立シンガポール大学の Christopher Chok Ke Bin が三等に選ばれた。

10 年以上前に設立された AUN は 2015 年に創設される ASEAN 経済共同体（AEC）に加盟する 10 カ国のグループの一部である。

ASEAN は政府間フォーラムではあるが、それぞれの国の国民、特に若者は各国相互の連携強化には欠かせない存在である。ASEAN は、タイ、マレーシア、フィリピン、インドネシア、シンガポール、ブルネイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス、カンボジアの 10 カ国からなるが、それと同時に中国、日本、韓国を地域パートナーとして、ASEAN プラス 3 という枠組みにおいて関係を深めてきた。2010 年 1 月 1 日には、ASEAN と中国の間で FTA が発効し、韓国、日本も ASEAN メンバー国との AFT に調印済である。

ヤング・スピーカー・コンテストは ASEAN 及び三ヶ国の友好を深めるために始められた最新の社会・文化面における取組である。地域間での学生や若者たちのネットワーク構築を目的としている。参加者はすべて学生で、AUN 加盟の 26 大学の所属である。タイからの代表は、マヒドン大学、チュラロンコン大学、チェンマイ大学、ブラバ大学の学生であった。

このコンテストとは別に、AUN では加盟国間での学生と大学スタッフの交換プログラムを進めており、域内での熟練労働者の流動性を高める政策の導入とともに開始する予定である。また、ユネスコでも、ASEAN 域内の学生が欧州およびアメリカに留学できる機会を提供するプロジェクトを開発している。

（Nation 紙 5 月 19 日）

## ■ タイから 5 大学、2011 年 QS アジア大学 ランキングのトップ 100 圏内 ■

マヒドン大学が 34 位につけ、タイの大学の中ではトップとなった。以下、チュラロンコン大学 47 位、チャンマイ大学 67 位、タマサート大学 88 位、プリンスオブソンクラ大学 95 位。

QS 大学ランキング 2011 年版では、香港科技大学トップにたち、香港大学、シンガポール国立大学がそれに続き、東京大学が 4 位、香港中国大学、ソウル国立大学、京都大学と続く。

マヒドン大学准教授で運営担当副学長、大学評議会事務局長でもある Passiri Nisalak は、学術への寄与、質の高い研究、国際レベルの教育、学生満足度、教員比率などが好成績の要因と分析している。

（Nation 紙 5 月 27 日）

## ■ ラオスに新省庁 ■

ラオスでは、6 月 15 日の国会により、ラオス人民革命党書記長チュンマリー・サイニャソーン（Choummaly Sayasone）は大統領としての地位を維持し、トーシン・タマヴォン（Thongsing Thammavong）は首相に再任された。

3 月の総会で書記長の第 2 期目を承認されたばかりでもあるチュンマリー大統領は、安定、強さ、幸福、連帯、和解、民主主義、文明化に全力を尽くすと語った。また、ラオスは

2015 年までに貧困を脱出し、2020 年までに最貧国のリストから抜け出ると語った。国会ではほかに 4 つの新たな省庁と大臣の設置を承認した。Khampane Philavong が内務大臣、Boviengkham Vongdara が科学技術大臣、Noulin Sinbandhit は天然資源・環境大臣、元在タイ大使でもある Hiem Phommachanh が郵便電信情報大臣。以上 4 つである。このほか、Vilayvanh Phomkhe が新たな農業森林大臣として任命された。

(Nation 紙 6 月 16 日)

#### 4月

- 7日(木) 東京大学より学生の訪問
- 8日(金) カセサート大学(Kasetsart University) 副学長を表敬訪問
- 11日(月)-15日(金) ソンクラン(タイの正月)休暇
- 18日(月) NRCT 訪問
- 21日(木) 東京にてセンター長会議
- 25日(月) タマサート大学(Thammasat University) Dr. Raktipong 来訪  
京都大学・園部助教来訪
- 22日(日) 神戸大学バンコク同窓会式典出席
- 24日(月) NRCT 表敬・打ち合せ
- 28日(金) VAST 主催ワークショップ 於 ベトナム・ハイフォンへ星野地域交流課長に随行
- 29日(土) ベトナム MOST での協定に関する打合せ同席

#### 5月

- 1日(火)-6日(金) ゴールデンウィーク休暇
- 10日(水) タイに事務所を設置する大学等意見交換会
- 19日(木) チュラロンコン大学(Chulalongkorn University) 総長補佐を表敬
- 31日(火) チュラロンコン大学理学部にて SATREPS 研究連絡会視察

#### 6月

- 7日(火) タマサート大学(Thammasat University) 副学長を表敬  
チュラロンコン大学(Chulalongkorn University) より学生が来訪
- 8日(水) JASSO タイ事務所 萩原所長が来訪
- 10日(金) 東京大学・川崎准教授が来訪
- 14日(火) 京都大学東南アジア研究所バンコク事務所にて夕食会
- 17日(金) 福岡工業大学学長一行が来訪  
キングモンクット工科大学ラックラバン校(King Monkut's Institute of Technology at Ladkraban)副学長を表敬
- 20日(月) 小島在タイ日本大使を表敬  
科学技術省にて科学技術博覧会についての説明会
- 21日(火) カセサート大学(Kasetsart University) にて、JSPS 事業説明及び BRIDGE Fellowship 報告会を実施
- 22日(水) JAXA タイ事務所にて第5回同窓会理事会を開催
- 23日(木) GISTDA にて事業説明会を実施
- 24日(金) JASSO タイ事務所にて事務所共用に関する打合せ
- 26日(日)-28日(火) マレーシア出張 第8回 SEE Forum に参加
- 30日(木) 東海大学・キングモンクット工科大学共催 東日本大震災後における大学の役割についてのセミナーに参加

## Map of JSPS Bangkok office

Please show this document to a taxi driver

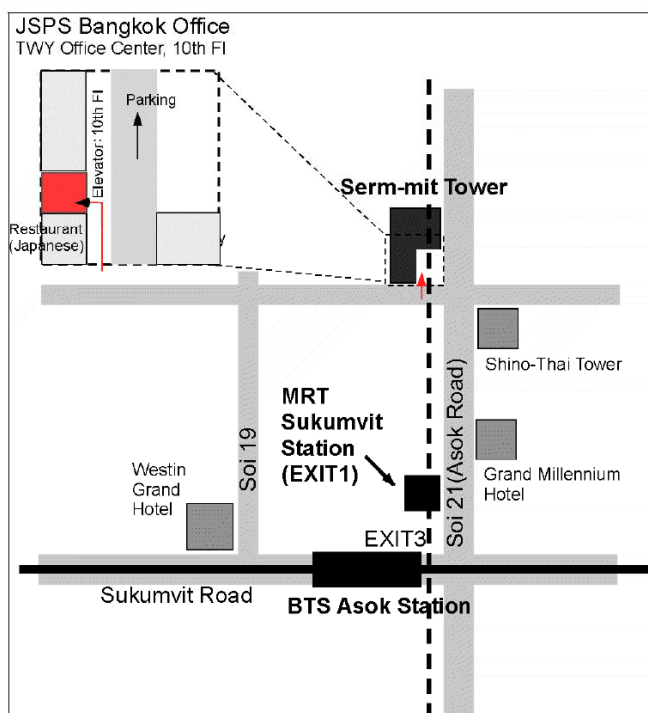
In English:

Please go to JSPS Bangkok office  
Serm-Mit Tower at Sukhumvit Soi 21 (Asok)

In Thai:

เดินทางมาที่ เจเอสพีเอส สำนักงานกรุงเทพ

มาส่งที่อาคารเสริมมิตร ซอยสุขุมวิท 21 ( อโศก )



Bangkok office

Japan Society for the Promotion of Science (JSPS)

113 TWY office center, 10F, Serm-mit Tower

159 Sukhumvit Soi 21, Bangkok 10110 Thailand

Tel: 02-661-6453

---

日本学術振興会バンコク研究連絡センター / JSPS Bangkok Office

113 TWY Office Center、10th Fl. Serm-mit Tower

159 Sukumvit Soi 21、Bangkok 10110

Tel: +66-2-661-6453 Fax: +66-2-661-6454